

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ファイナンシャル・プランニングⅡ Finanncial Planning II		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	( )	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
法学、民法Ⅰ、不動産関係法、税法Ⅰ、金融と証券、社会保障Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
法学、民法Ⅰ、不動産関係法、税法Ⅰ、金融と証券、社会保障Ⅰ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
水谷 恒夫	非常勤講師室	出講日		授業中に指示します
授業の概要				
個人の家庭のライフプランをベースに、貯蓄や投資、保険、年金、不動産、税金、相続などを包括的にアドバイスする専門家＝ファイナンシャルプランナーの育成を目指す。専門家として必須の資格であるFP技能士3級検定試験の合格を目指す。				
授業の目標				
【1】前期、後期を通じて①ライフプランニングと資金計画 ②リスク管理と保険 ③金融資産運用設計 ④タックスプランニング ⑤不動産運用設計 ⑥相続・事業承継設計の6分野について説明、アドバイスができるようにする。【2】国家資格であるFP技能士3級検定試験の学科試験と実技試験の両方に合格できるようにする。【3】3級技能士試験検定試験は2020年1月試験の学科試験、実技試験の両方に合格できるようにする。				
授業の方法				
タックスプランニングは「税法Ⅰ」「税法Ⅱ」、不動産運用設計は「不動産関係法」、相続・事業承継設計は「民法Ⅰ」「民法Ⅱ」で学習するので、履修を行うこと。ファイナンシャル・プランニングⅡでは①金融資産運用設計 ②タックス、不動産、相続の概論 ③6科目の総まとめを実施する。				
学習の成果（学習成果）				
【1】試験の合格によって国家資格を取得し、就職、面接にアピールできる。【2】幅広いFPの知識を修得することによって、アドバイザーとしてのスキルを修得し、実務に役立てることができる。【3】身近な家計を考える際にも、FPの知識をベースに生活設計を行うことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	金融資産運用設計（1）：経済指標、貯蓄商品			
第2回目	金融資産運用設計（2）：債券			
第3回目	金融資産運用設計（3）：株式			
第4回目	金融資産運用設計（4）：投資信託			
第5回目	金融資産運用設計（5）：外貨建て商品			
第6回目	金融資産運用設計（6）：ポートフォリオ、派生商品			

第7回目	金融資産運用設計（7）：NISA、税金	
第8回目	タックスプランニング概論	
第9回目	不動産運用設計概論	
第10回目	相続概論	
第11回目	6科目総まとめ（1）	
第12回目	6科目総まとめ（2）	
第13回目	6科目総まとめ（3）	
第14回目	6科目総まとめ（4）	
第15回目	6科目総まとめ（5）	
事前・事後学習	事前に次回の学習範囲を示しますので、テキストを読んでおくこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		（注）著しく授業参加態度が不適切な場合は、10点の範囲内で成績を減点する場合があります。減点事項としては、①遅刻、早退 ②授業中の居眠り、私語 ③その他受講態度として不適切とみなされるもの。である。
レポート		
調査報告書		
小テスト	50%	10回目をめどに、小テストを実施する。正答率に50%のウェイトを乗じ成績に反映する。
試験	50%	16回目の終講試験の正答率に50%のウェイトを乗じ、成績に反映する。
発表内容（態度含む）		授業中にテキストの内容、授業の内容について質問をする場合がある。
その他		
教科書と参考図書		
「FP技能士3級 合格マイスター基本講義」 実務教育出版 ※問題集は6月ごろの購入とします。		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（証券会社勤務 22年、独立系ファイナンシャルプランナー 10年） テキスト・問題集・電卓（携帯やスマホに内蔵されているものは不可）・ノートを持参すること。重要な論点は板書するので、ノートに記入すること。		